

【様式2】

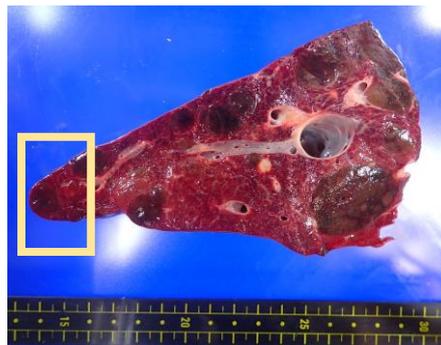
演 題：牛の肝臓
機 関 名：豊橋市食肉衛生検査所 氏 名：縣 舞
動 物 名：牛 品種：黒毛和種 性別：雌 年齢：156 ヲ月齡
病 歴：特になし
生 体 所 見：特になし

内 臓 所 見：肝臓は65×45×20cmと著しく腫大していた。左葉に45×22×18cmの硬結感のある淡緑色腫瘍を認めた。淡緑色腫瘍の周りには直径1～4cmの暗赤褐色結節が右葉全体にわたり多発し、肝臓実質はモザイク状を呈していた。淡緑色腫瘍の断面は不規則分胞状に区画され、各分画は暗赤褐色ないし淡緑色を呈し、一部出血を認めた。また、肺全体に直径0.5～0.8cmの緑褐色結節を複数認めた。結節は薄い皮膜で覆われ、一部出血を認めた。他臓器に腫瘍性病変は認めなかった。

組 織 所 見：腫瘍組織は、周囲の肝臓組織と明瞭な結合組織で区画されていた。淡緑色腫瘍の腫瘍細胞は島状に配列し、紡錘形の細胞で裏打ちされた管腔内には胆汁の貯留を認めた。また、腫瘍組織では著しい脂肪変性を認めた。腫瘍細胞の核は淡明で類円形を呈し、明瞭な好酸性の核小体を複数有していた。核の大小不同があり、核分裂像を認めた。暗赤褐色結節の腫瘍細胞は、1～3個の細胞からなる細い索状に配列し、紡錘形の細胞に裏打ちされた類洞様の管腔を形成していた。また、腫瘍細胞内にはわずかに胆汁の産生を認めた。腫瘍細胞の核は淡明で類円形を呈していたが、核小体は1～2個で、大小不同も認めず異形成は乏しかった。

固 定 方 法：10%中性緩衝ホルマリン液

切り出し部位 (図示)



行政処分： 全部廃棄 ・ 一部廃棄 (記載例：炎症 腫瘍)

※該当する方を○で囲み、と畜場法等による疾病名または異常を () 内に記入

組織診断名：※配布標本から付けられる診断名 (配布標本の部位名を記入すること)

牛の肝細胞結節性過形成

疾病診断名：※個体の状態を総合的に判断して付けられる主たる疾病名 (動物種名を記載すること)

牛の肝細胞癌がみられた肝臓の結節性過形成